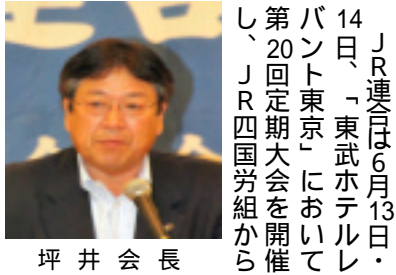




JR連合 第20回定期大会開催

前田庸之執行委員を四国より選出 新たな役員体制の下 力強くスタート!



坪井 会長

14日、「東武ホテルレバント東京」において第20回定期大会を開催し、JR四国労働組合から

も代議員、特別代議員、傍聴者など13名が出席した。大会は、「JR 25年の節目に政策制度、組織課題を解決し、大震災を教訓に安全で社会に貢献するJRを築こう!」をスローガンに掲げ、代議員、来賓、傍聴者合わせ、約270名が参集し、建設的

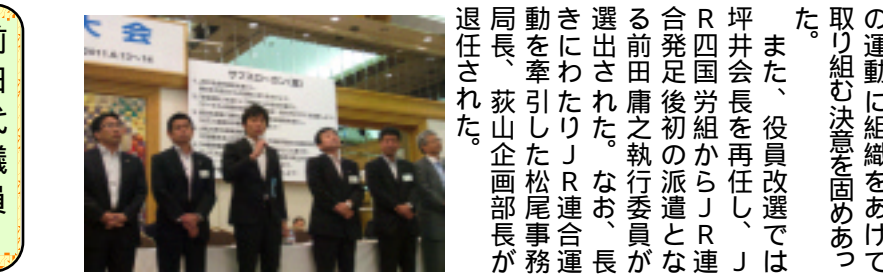
かつ熱心な討議を通じ、安全確立、民主化闘争勝利、政策実現を中心とする新年度の運動方針を満場一致で決定した。

JR連合坪井会長は挨拶で、「東日本大震災の被害に遭われた方々に対して心からお悔みとお見舞いを申し上げるとともに、鉄道の復旧・復興に総力をあげ、取り組んでいく。JRは来年4月に発足25年、JR連合も結成20周年の節目を迎える。JR連合は責任産別組合として堂々と邁進しているが、一方、国鉄改革からの経営課題、組織課題が今なお残されている。こうした課題に正面から立ち向かい、すべてのJR労働者を代表する産別労働組合として、安心と信頼の将来展望を切り拓くために、組織をあげて運動の前進に取り組んでいきたい」などと訴え、運動方針の各重要課題について、所信を述べた。



前田 庸之 氏

前田代議員 発言要旨



東日本大震災は、東北地方を中心に未曾有の大災害をもたらした。立ち上がり、建設的な発言があった。JR四国労働組合も、安全確立、組織関係、政策関係について発言し、討論に参加した。

代議員からの発言を受け、執行部答弁、松尾事務局長の総括答弁のあと、全議案が満場一致で可決し、新年度の運動に組織をあげて取り組む決意を固めあつた。

また、役員改選では坪井会長を再任し、JR四国労働組合からJR連合発足後初の派遣となる前田庸之執行委員が選出された。なお、長きにわたりJR連合運動を牽引した松尾事務局長、荻山企画部長が退任された。

「私たちができること」を常に考え、支援行動に取り組んでいきたい。今回の震災で思ったが、被災地の東北や、東京での帰宅困難者も含め、「日々、列車が当たり前のようには走ることの凄さ」を痛感した。災害等でやむなく止まることは別として、お客様からは、当然のことながら、「列車は安全に、当たり前のよう」に日々、走るもの」と思われている。この当たり前の安全運行のため、我々JR四国労働組合も、「安全・安定輸送の確保がすべてに優先するものである」との認識にたち、労働組合としてのチェック・提言機能を発揮しながら、安全の確立に向け取り組んでいる。

しかしながら、事故は「ゼロ」にはなっていないのが実態である。JR連合の安全指針にも触れられている「ヒューマンエラー」は結果であり、原因ではない」との考えの基、事故後の対策等について、グループ会社を含めた職場で議論を重ね、その場で

の方針をさらに補強する立場からの建設的な発言があった。JR四国労働組合も、安全確立、組織関係、政策関係について発言し、討論に参加した。

の被災者もたらした。すべての被災された方々に対して、お見舞いを申し上げるとともに、救援・復旧作業に、また公共交通機関として地域の足を守るため、奮闘されている皆様に敬意を表したい。我々は引き続き、連合の被災地復興ボランティア活動等への参加をはじめ、四国においても、「私たちができること」を常に考え、支援行動に取り組んでいきたい。

組織について、四国はJR総連系の組織は存在せず、国労との二極構造となっているが、我々はこの間、組合員の雇用と生活を守ることを大前提に、労々間の垣根を越えて大同団結すべきとの大局観に立ち、「一企業一組合」に向け、運動を展開してきた。

「政策関係について、特別業務協定の利益剰余金を活用した支援策」が国会を無事通過した。JR連合をはじめ、尽力頂いた関係者皆様方に改めて感謝申し上げます。

一方、この支援策とは別に、今年度末で期限切れとなる「税制特例」の課題解決が迫られている。これまで、様々な要因による大幅な収入減に対し、当然なことではあるが単に支援策に頼るのではなく、ワンマン列車の拡大や編成両数の見直し等々の自助努力も重ねてきた。しかしながら自助努力も、もう限界に近づいており、昨年は駅の無人化拡大などにより契約社員の雇い止めも発生した。

うな意見交換を自治体をはじめ様々な方々と議論できた。

一方、この支援策とは別に、今年度末で期限切れとなる「税制特例」の課題解決が迫られている。これまで、様々な要因による大幅な収入減に対し、当然なことではあるが単に支援策に頼るのではなく、ワンマン列車の拡大や編成両数の見直し等々の自助努力も重ねてきた。しかしながら自助努力も、もう限界に近づいており、昨年は駅の無人化拡大などにより契約社員の雇い止めも発生した。

そもそも四国は、経営安定基金の運用資金により、赤字を補填するスキームに基づいて設立されたが、低金利などにより本来の機能がなくなっており、組合員の努力によって収支均衡が図られていたが、今や赤字に転落しているのが実態である。

これまでの間、JR連合をはじめ関係各方面の協力によって、時間的な支援措置を頂いてきたことには感謝するが、何卒、限定的な措置ではなく、恒久的な措置がなされるよう、当該単組としてもしっかりと政策課題実現に向け取り組んでいく。JR連合の更なるご指導・お力添えをお願いする。



「鉄道・運輸機構」特例業務勘定を活用した JR三島・貨物支援が確定 ～引き続き税制特例の扱いなど、 政策課題に対応するため全力で取り組む！～

JR四国労組ニュース

平成23年6月8日(27) 発行責任者/真辺 政昭 編集責任者/大谷 清

「国鉄清算事業団債務等処理法改正案」成立

JR三島・貨物支援が確定!

JR四国労組は、これまでJR連合等と連携し「鉄道建設・運輸施設整備支援機構」特例業務勘定・利益剰余金の有効活用について、未だ経営自立の難しいJR四国をはじめとするJR三島・貨物会社の支援に活用すべきとの考え方のもと、総力をあげて政策実現に取り組んできました。その結果、昨年12月21日、無利子貸付等の支援措置を実施するなどの取り扱いが関係大臣で合意されました。

この支援措置の根拠となる、「日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律等の一部を改正する法律案」は、2月8日に閣議決定され、3月8日に衆議院に上程されていましたが、東日本大震災の発生により審議が遅れていました。その後、5月24日の国土交通委員会での趣旨説明を行って以降、衆参の国土交通委員会の審議、可決を経て、衆議院は5月31日、参議院では本日(6月8日)の本会議においていずれも可決し、同法案が成立しました。

「鉄道・運輸機構」の利益剰余金の取り扱いについては、これまでJR連合及びJR連合国会議員懇談会や「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」、四国の鉄道を考える国会議員連絡会と連携し、総力を挙げて政策実現にむけて精力的に取り組み、169名の議員に本件要望に関する賛同を頂き、署名を関係大臣に提出してきました。また、地方議会においても、利益剰余金を活用したJR三島・貨物会社の自立経営の確保等を求める意見書の採択行動を展開し、12月議会までに全国で76の議会(四国では10の議会)で採決されました。

本日の法案の成立は、こうした取り組みの成果であり、これまでの支援策要請行動に対し、ご協力頂いたJR連合国会議員懇談会をはじめとします議員各位、県・市・町議各位、並びに各県協をはじめ組合員の皆様に心より御礼を申し上げます。

引き続き、2011年度末に期限を迎えるJR三島・貨物会社に対する税制特例の扱いなど、私たちに係わる重要な政策課題に対応するため、全力で取り組むこととします。

【参考：JR四国関係】

経営安定基金積み増しに1,400億円 (無利子貸付方式)
設備投資支援として10年間で400億円 (1/2助成、1/2無利子貸付)



愛媛支部
増収レクレーション
開催!

レク・サークルだより

私たち愛媛電気分会は4月23日、あじな散歩道を利用した「アサヒビール園増収レクレーション」を開催しました。

今回のレクは、4月での増収参加率100%達成を目指して開催しました。当日は27名の多くの参加者が集まり、今年度最初の増収レクを盛大に開催することが出来ました。普段、話をする事のない組合員であつてもお酒とジンギスカンと愛媛電気分会が持つ独特のオーラを前にすると、自然と会話も弾み組合員の親睦を深める事が出来ました。今後も愛媛電気分会では、様々なレクレーションを開催し、組合員相互の団結を図っていくとともに、誰もが親しみを持てる分会を目指して行きたいと思



徳島支部
平成23年度も
増収ツアー開催!

います。

愛媛電気分会
松井 繁和

徳島運輸所分會では徳島運輸所再発見委員と協賛し、4月17日(20日までの4日間、平成23年度第1回増収ツアーを開催しました。今回は、「まず地元徳島を起点に...」というところで、場所を『鳴門グランドホテル』に決定したところ、多くの人が参加できました。

展望露天風呂で日頃の疲れを落とし、鳴門鯛に舌鼓を打ち、親睦を図ることができ、参加者からは早くも次回

を期待する声があり、今後の活動の励みになりました。今年度も、更なる組織の団結と強化を図っていきたく思います。徳島運輸所分會
立石 信弘

高知支部

増収レクで
分会の活性化を
図る!

高知運輸所分會では4月24(28日)にかけ、あじな散歩道を利用し

第11回本部執行委員会開催

第11回本部執行委員会は、7月8日(金)第30回定期大会の前段の11時00分より、徳島市「ホテルクレメント徳島」の会場で開催し、前回の執行委員会以降の経過報告等を行った。

- ・ダイヤ改正(団交)
- ・平成23年度夏季手当等(JR四国・ジェイアール四国バス)
- ・(政治) JR四国労組議員団会議第20回総会(部会)
- ・関連部会定期委員会
- ・(業務) 安全推進委員会
- ・(政策) ITF統一行動
- ・第7回「四国の鉄

- ・道を考える国会議員連絡会(組織)
- ・出向組合員対話集会(本社・香川・愛媛)
- ・(総務) JR四国社員互助会理事會
- ・(JR連合) 第20回定期大会
- ・【議事】平成23年度夏季手当等の受結承認について
- ・工務部会「答申」について



たレクを開催しました。今回は5日間で122名という多くの組合員が参加することができ、何といても5日間全てに「晴れ男」が居るかのような好天に恵まれ、土佐の海の幸と雄大な太平洋の広さ、そして旨いビールに酔いしれ、心身ともにリフレッシュできた有意義なレクとなりました。

今回のレクレーションでは、若手・ベテラン問わず多くの組合員の参加がありました。これからは幅広い年齢層が参加できるレクレ

本社支部

準組合員
対話集會を開催!



本社支部では6月10日、準組合員を対象とした「対話集會」を開催しました。

当日は準組合員をはじめ、関係分會長など総勢28名が出席し、本

部3階にてオリエンテーションを行った後、「全日空ホテルクレメント高松」のビアテラスで懇親会を行いました。

懇親会では、職場の垣根を超え、仕事や趣味の話で盛り上がり、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後、気軽に参加でき、組合員同士の交流・親睦が図れるレクレーションを開催していきたいと思

本社支部
幸 大

